



# 地域連携室だより

〒930-8550 富山市西長江2-2-78 | TEL 076 (424) 1531 | <https://www.tch.pref.toyama.jp/>



早春の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

今月の掲載は、呼吸器外科、耳鼻いんこう科、

NST (栄養サポートチーム) です。



YouTubeで当院の「今」をお伝えしています。是非ご覧ください。



## 診療科の紹介

## 呼吸器外科



外来受診表

	月	火	水	木	金	
午前		初・再診 再診	新納 川向		初・再診 再診	新納 川向
午後		再診	高橋			

呼吸器外科スタッフ

後列左より 藤井医員、高山医師、高橋副医長、藤原研修医

前列左より 川向医長、新納部長、小森外来看護師

### ◆診療スタッフのご紹介

呼吸器外科は、新納英樹部長、川向純医長、高橋智彦副医長、藤井みのり医員（救急科兼務）、高山恭滉医師（外科専攻医）が診療を担当しております。

外来担当は、右上の表のとおりです。

### ◆診療内容

2023年は肺悪性腫瘍手術を178例（原発性肺癌147例、転移性肺腫瘍31例）行い、縦隔腫瘍、気胸などを含め胸部外科手術全体では290例、気管ステント留置術や頸部手術などの手術も含めると年間約300例の手術を行いました。

肺悪性腫瘍に対しては全症例の95%で完全鏡視下の胸腔鏡手術を行い、術後の疼痛軽減や早期離床、早期退院を実践しています。長年肺癌の標準治療とされてきた肺葉切除はもちろんのこと、近年では末梢小型肺癌に対する区域切除の有用性が注目されており、全国的に区域切除症例が増加しています。当科では以前より区域切除を積極的に施行しており、豊富な経験をもとに適切な症例選択を行い、根治性と肺機能温存の両立を心掛けています。ロボット支援下手術も各種デバイスの発展に伴い全国的にも導入する施設が増加しており、当科においても胸腔鏡手術と同等かそれ以上の安全性と根治性が得られると判断し導入しています。

また、周囲組織浸潤を伴う進行肺癌に対しては開胸による拡大手術も行っています。近年では後述する薬物療法導入後の手術により予後改善が期待されており、手術不可能と思われた症例が手術可能になるなど、当科でも徐々に適応症例が増加しています。

その他にも気道狭窄に対する気管・気管支ステント留置術を中心とした気管支インターベンションも積極的に進めています。

#### ◆最近の話題

進行肺癌に対する治療方針として、従来は、術後補助化学療法のエビデンスが術前補助化学療法と比較し質・量ともに優っていることや術前の臨床病期の曖昧さもあり、術後補助化学療法が選択されることが多いというのが実情でした。また、術前化学放射線療法も選択肢として挙げられますが、放射線の影響により周術期合併症のリスクが上昇することが知られていました。近年では、薬物療法の発展に伴い、術前術後の薬物療法の選択肢が増え、進行肺癌に対する手術適応が拡大しています。その中でも、免疫チェックポイント阻害薬であるニボルマブとプラチナ併用化学療法を組み合わせた術前薬物療法後の手術症例ではPD-L1発現にかかわらず病理学的完全奏功（pCR）率、

無イベント生存（EFS）、全生存期間（OS）を改善させることが明らかとなっており、当院でも呼吸器がんボードを毎週実施し、それぞれの専門的な立場から個々の症例に合わせた最善の治療方針を検討しています。

#### 【症例提示】

症例 50歳代男性

胸痛を主訴に近医を受診し、胸部X線写真で右中肺野に腫瘤影を指摘され当院呼吸器内科に紹介となり、精査の結果、原発性右下葉肺扁平上皮癌（cT3N1M0 Stage III A）の診断となりました。肺癌診療ガイドライン（2022年度版）において、臨床病期 III A の非小細胞肺癌の治療方針は呼吸器外科医、呼吸器内科医、放射線治療医を含めた集学的治療グループでの検討が推奨されており、前述の呼吸器がんボードで十分な検討を行いました。その結果、術前薬物療法としてカルボプラチン+パクリタキセル+ニボルマブの3剤併用療法を3コース行い、その後に手術を行う方針としました。

3コース投与後の効果判定のCTでは腫瘍径の明らかな縮小を認め（図1左→図2左）、一方でリンパ節転移（LN#11i）に関しては不変でした（図1右→図2右）が、ycT2aN1M0 stage II Bとダウンステージが得られ、予定通り手術の方針としました。

手術は胸腔鏡下に行い、LN#11iのリンパ節転移の中葉への浸潤が認められ、癌の遺残が懸念されたため右肺中下葉切除としました。完全切除が可能であり、現在も無再発生存中です。病理学的効果判定ではE<sub>f</sub>.1bであり、再発リスクの低下が期待されます。

このように免疫チェックポイント阻害薬とプラチナ製剤併用による術前薬物療法は、効果が高い一方で組織への影響が放射線化学療法と比較して小さいため手術に移行しやすく、周術期の合併症の危険性が低いと考えられ、今後さらなる治療成績の改善が期待されます。

### ◆最後に

日頃より地域の先生方には多くの患者さんをご紹介いただきありがとうございます。

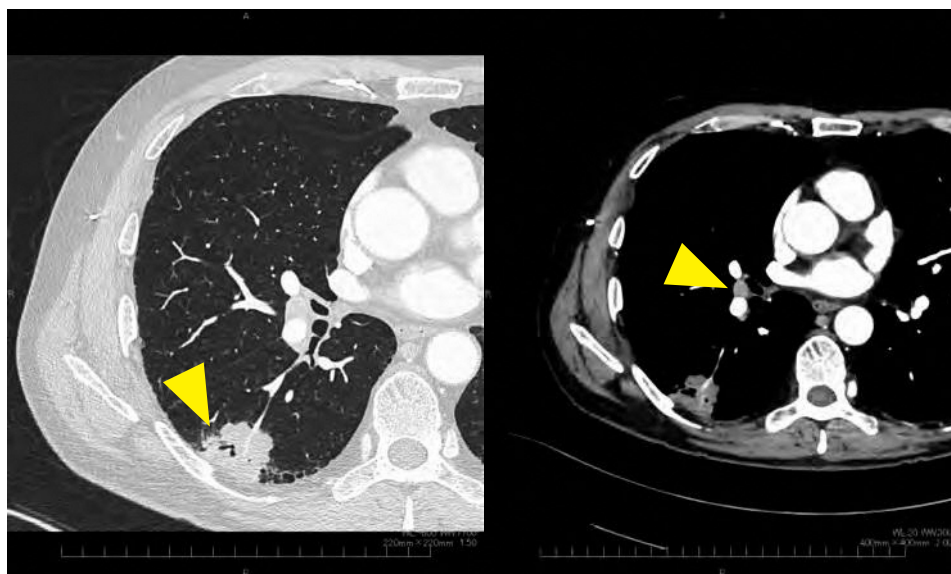
当院では前述の通り、呼吸器がんボードを毎週行っており、当科および呼吸器内科のいずれの初診であっても、早い段階で最善の治療方針を決定し、実施するよう心掛けています。肺癌症例

のみならず呼吸器疾患全般についても、いつでもご紹介いただきたく存じます。

今後も地域の先生方のご協力のもと、最善の医療を提供していきたいと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

(文責 川向)

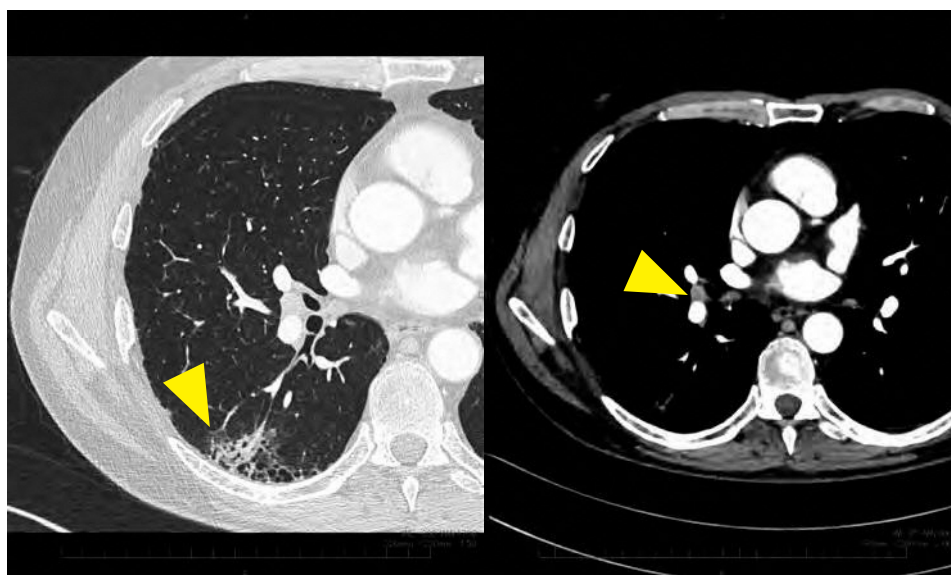
図1 薬物療法前



原発巣

LN#11の腫大

図2 薬物療法後



原発巣の縮小

LN#11は不変



# 耳鼻いんこう科のご案内

## 診療科のアピールポイント


- ①頭頸部悪性腫瘍の治療を積極的に行っている
- ②頭頸部悪性腫瘍に対する新しい治療である、免疫チェックポイント阻害剤や分子標的治療薬の加療を積極的に導入している
- ③耳鼻咽喉科全般において手術加療を施行している

## 専門領域と治療内容の特徴

入院患者さんの約半数は頭頸部悪性腫瘍であり、手術や放射線化学療法などの積極的な治療から、終末期の疼痛緩和治療まで行っております。最近では頭頸部癌の再発、転移症例に対する新しい治療として、従来の抗癌剤に加え、免疫チェックポイント阻害剤や分子標的治療薬などを用いた治療も積極的に行っております。また従来、当院では呼吸器外科で行っていた甲状腺手術も2022年4月より当科で施行するようになっております。中耳炎に対する鼓室形成術、鼓膜形成術、副鼻腔炎に対する鼻内内視鏡手術、頭頸部の良性疾患（慢性扁桃炎、アデノイド、声帯ポリープ、唾液腺腫瘍、頸部嚢胞性疾患）に対する手術は、十分患者さんと相談のうえ適応を判断しております。突発性難聴や顔面神経麻痺は、必要に応じて入院のうステロイド全身投与を施行しております。睡眠時無呼吸症候群の診断と治療も当科で積極的に行っております。

## 医師紹介

経験豊富なスタッフが万全な体制で治療をサポート




**部長**  
うらもと なおき  
**浦本 直紀**

【(患者さんに向けた)一言】  
・最善の治療を心がけています

【自身の専門性(手技他)アピール】  
・耳鼻咽喉科全般

【専門医資格】  
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医 耳鼻咽喉科専門研修指導医  
金沢大学臨床准教授




**医長**  
いしかわ かずや  
**石川 和也**

【(患者さんに向けた)一言】  
・知識や技術の習得に努めています

【自身の専門性(手技他)アピール】  
・耳鼻咽喉科全般

【専門医資格】  
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医 耳鼻咽喉科専門研修指導医




**副医長**  
よしかわ ともみ  
**吉川 智美**

【(患者さんに向けた)一言】  
・丁寧で分かりやすい説明を心がけています

【自身の専門性(手技他)アピール】  
・耳鼻咽喉科全般

【専門医資格】  
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医



**医師**  
さかの まい  
**酒野 真衣**

【(患者さんに向けた)一言】  
・患者さんに寄り添った診療を心がけています

【自身の専門性(手技他)アピール】  
・耳鼻咽喉科全般

## 外来診療担当表

	月	火	水	木	金
初診	浦本	石川	石川	酒野	吉川
再診	石川	浦本	浦本	浦本	浦本
	吉川	吉川	吉川	石川	石川
	酒野	酒野	酒野	吉川	酒野

# NST (栄養サポートチーム) のご紹介

当院は急性期病院であり、病気が重症で全身状態が不安定なこと、高齢者が多く、入院前から嚥下障害・低栄養である患者さんも少なくありません。私たちNST (Nutrition Support Team) では、栄養管理に難渋している症例に対して、毎週木曜日に医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士など多職種で適切なアセスメントを行い、患者さんに合わせた栄養介入を提案するために、カンファレンス及び病棟回診を行っています。

NSTが介入し、患者さんの回復を実感した症例を提示します。患者さんは、治療による副作用のため急激な体重減少を認め、そのため腸管での通過障害をきたす上腸間膜動脈症候群にて、胃管が留置されている状態で当院に転院し、同時にNST介入依頼がありました。通過障害は改善傾向であったため、経口摂取を試みましたが、長期間の胃管留置、廃用の影響で嚥下障害が出現し、経口摂取再開が困難でした。患者さんは「口から食べられるようになりたい」という希望もあり、嚥下

訓練、運動リハビリを開始し、リハビリ効果を上げるための栄養管理を行うために、病棟と協力しながら、栄養剤の投与量の調整、嚥下訓練、離床をすすめていきました。患者さんも意欲的に自主練を行っていた効果もあり、徐々に嚥下機能は回復し、最終的には経口摂取単独で必要量を確保でき、誤嚥をおこすことなく在宅復帰することが可能となりました。現在も外来通院にて治療を継続することができています。

患者さんを通して、栄養のサポートで全てが解決したわけではありませんが、適切な栄養投与を行いながらリハビリを実施することで、より大きな効果をあげることができたと実感した症例でした。介入する多くの症例すべてが良い方向に向かう訳ではありませんが、NSTとして、入院生活を過ごすうえで、全身状態の改善やリハビリ強化にむけて、適切な栄養サポートができるように活動を継続しています。



## 1 連携談話会・症例検討会のご案内

### 4月開催予定

#### ★第178回 富山県立中央病院消化器がんセンターボード

日時：令和6年4月4日(木) 17時から

場所：富山県立中央病院 5階ホール

#### ★中央病院病診連携談話会

日時：令和6年4月8日(月) 19時から

場所：富山県立中央病院 5階ホール

#### 富山県皮膚科病診連携症例検討会(二木会)

日時：令和6年4月11日(木) 19時から

場所：富山県立中央病院 中央病棟B1階会議室

#### 呼吸器がんセンターボード

日時：令和6年4月2、9、16、23、30日(火)

16時30分から

場所：富山県立中央病院 中央病棟B1階会議室

### 5月開催予定

#### ★第179回 富山県立中央病院消化器がんセンターボード

日時：令和6年5月2日(木) 17時から

場所：富山県立中央病院 5階ホール

#### 富山県皮膚科病診連携症例検討会(二木会)

日時：令和6年5月9日(木) 19時から

場所：富山県立中央病院 中央病棟B1階会議室

#### ★中央病院病診連携談話会

日時：令和6年5月13日(月) 19時から

場所：富山県立中央病院 5階ホール

#### ★第126回 漢方症例検討会

日時：令和6年5月17日(金) 19時から

場所：富山県立中央病院 中央病棟B1階会議室

#### ★富山県立中央病院がんセンター部がんセンターボード

日時：令和6年5月20日(木) 17時から

場所：富山県立中央病院 5階ホール

#### 呼吸器がんセンターボード

日時：令和6年5月7、14、21、28日(火)

16時30分から

場所：富山県立中央病院 中央病棟B1階会議室

#### ★糖尿病療養指導のための講習会

日時：令和6年5月30日(木) 17時から

場所：富山県立中央病院 5階ホール

★…医療機関スタッフの方々への公開学習の場としています。  
お気軽にご参加ください。

「地域連携室だより」の送付を希望されない場合は  
下記までご連絡下さい。

富山県立中央病院  
地域連携室

○代表電話 076 (424) 1531/内線3177  
○予約専用 076 (491) 7160  
○FAX 076 (491) 7109

## 2 4月の外来診療に関する医師不在日

科名	医師名	不在日
リウマチ・ 和漢診療科	藤永医師	17日(水)～19日(金)
	津田(玲)医師	19日(金)
乳腺外科	吉川(朱)医師	17日(水)、19日(金)
整形外科	笹川医師	17日(水)～19日(金)
	山本医師	26日(金)
産婦人科	谷村医師	19日(金)、25日(木)、26日(金)
	吉越医師	1日(月)
歯科口腔外科	小島歯科医師	10日(水)
	倉部歯科医師	10日(水)
放射線治療科	豊嶋医師	12日(金)
	高医師	12日(金)

## 3 受診にあたってのお願い

日頃より、地域連携室業務に多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。

時折、予約なく診療情報提供書をお持ちになって来院され、当日の受付枠がいっぱいで、後日の予約を取ってお帰りいただく場合があります。

ご面倒でも、受診前に地域連携室にお電話いただき予約をお願いします。その際には診療情報提供書を事前にFAXいただきますと診療までの待ち時間の短縮にもつながりますので、ご理解とご協力を賜りたく存じます。何卒よろしくお願いいたします。

### 編集後記

春の訪れが待ち遠しい今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。寒さが苦手な私は、休みの日はまだまだ家で過ごすことが多いです。今は高校の同級生に勧められて数年前に始めた「謎解き」に熱中しています。YouTube、謎解き本、キット、オンラインの脱出ゲーム等様々な方法で楽しめます。分からない問題があれば、違う角度から考えてみたり、友人に聞いてみたり…人によって同じものでも捉えた方が違うのだと気づかされます。今年は参加型の脱出ゲームにもたくさん挑戦したいと思います。

寒暖差が大きい日が続いていますが、皆様どうぞお身体に気をつけてお過ごしください。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

地域連携室保健師 市野由香



河津桜  
撮影：地域連携室看護師 吉田 弘子

がん診療に関する相談支援センター

ホームページアドレス <https://www.tch.pref.toyama.jp/>

地域連携室(医療機関向け) 電話076-424-1531/内線3177

メールアドレス [chiikirenkei@pref.toyama.lg.jp](mailto:chiikirenkei@pref.toyama.lg.jp)

医療相談室(患者・ご家族向け) 電話076-424-1531/内線9130・9307

メールアドレス [kango@pref.toyama.lg.jp](mailto:kango@pref.toyama.lg.jp)